

主題：パウロの書簡における真理の重要な項目

メッセージ 4

——コリント人への第一の手紙

主と一つ霊になり、最高の霊性を持つ

聖書：I コリント 6:17, 19-20, 7:17-25, 40

- I. 新約の本質は、二つの霊、すなわち、神の霊と人の霊がミングリングされて、一つ霊になることです——6:17. ローマ 8:4 :
- A. I コリント第 6 章 17 節の「結合される」という言葉は、信者たちが主の中へと信じることを通して、主と有機的結合を持つことを指しています——ヨハネ 3:15-16, 15:4-5。
- B. 「一つ霊」という表現は、その霊である主とわたしたちの霊とのミングリングを示しています：
1. わたしたちの霊と主の霊とがミングリングされて一つ霊となったこの霊は、主の霊であり、またわたしたちの霊でもあります——ローマ 8:4. II コリント 3:17. I コリント 15:45 後半, 6:17。
 2. わたしたちのすべての霊的経験、すなわち、わたしたちが主と交わること、主に祈ること、主と共に生きることなどは、このミングリングされた霊の中に含まれます。
- C. 神と人の結合は、二つの霊、すなわち、神の霊と人の霊との結合です(2:11-14)。これら二つの霊の結合は、聖書の中の最も深い奥義です。
- D. 神のエコノミーの焦点は、ミングリングされた霊、すなわち、神の霊と人の霊のミングリングです。すべて神が行なおうとすること、達成しようとするのは、この焦点と関係があります——エペソ 3:9, 5, 1:17, 2:22, 4:23, 5:18, 6:18。
- E. わたしたちは主と一つ霊になることによって、すべてを含む方として彼を経験することができます——I コリント 1:2, 24, 30, 2:8, 10, 3:11, 5:7-8, 10:3-4, 11:3, 12:12, 15:20, 47, 45 :
1. わたしたちがキリストを享受するのは、彼に結合されて一つ霊となることによります。
 2. わたしたちがキリストを経験し、キリストをすべてとすることができるのは、わたしたちが彼と一つ霊になっているからです。
 3. わたしたちは主と一つ霊である時、御子、すなわち、わたしたちの主イエス・キリストの交わりを享受します——1:9。
 4. 主と一つ霊であるすべての人にとって、供給は無尽蔵です。
- F. 信仰の霊とは(II コリント 4:13)、聖霊とわたしたちの人の霊とがミングリングされたものです。わたしたちはこのような霊を活用して信じ、自分が主について経験した事を語るべきです。
- G. 聖霊はわたしたちの霊の中におり(ローマ 8:16)、わたしたちの霊はわたしたちの体の中にあります。このゆえに、わたしたちの体は聖霊の宮になります——I コ

リント 6:19-20 :

1. わたしたちと主との有機的結合は、わたしたちの体がキリストの肢体になることができるようにします——15 節。
 2. わたしたちはキリストと有機的に結合されており、またキリストはわたしたちの霊の中に住んで(Ⅱテモテ 4:22)、わたしたちの心の中にご自身のホームを造っている(エペソ 3:17)、わたしたちの全存在が、わたしたちの清められた体を含めて、キリストの肢体となります。
 3. わたしたちが緊急に見る必要のあるビジョンとは、わたしたちの体がキリストの肢体であること、わたしたちが主と一つ霊であること、わたしたちの体が聖霊の宮であることです——Ⅰコリント 6:15, 17, 19。
- H. ミングリングされた霊とは、神と一つ霊である霊、また神格においてではなく、命と性質において神と同じである霊です——Ⅰヨハネ 5:11. Ⅱペテロ 1:4 :
1. わたしたちの中で、神の霊と人の霊はミングリングされて一になっています。それによってわたしたちは、神・人の生活、すなわち、神であるが人であり、人であるが神である生活を行うことができます——ガラテヤ 2:20. ピリピ 1:19-21 前半。
 2. 神・人の生活とは、二つの霊、すなわち、神の霊と人の霊が結合され、ミングリングされ、一となった生活です。
- Ⅱ. Ⅰコリント第 7 章は、主を愛する一人の人の霊を表明しています。彼は、地上での主の権益に関心を持ち、主に対して絶対的であり、主と一であり、あらゆる面において従順であり、神に服従し、神と彼の案配した環境に満足しました :
- A. パウロは神と完全に一でした。パウロは、コリントの信者たちが神と一になること、自分からは何事も開始しないことを望みました——17-24 節。
 - B. パウロは完全に主と一であったので、彼の教えと答えの中で、自然に、また無意識のうちに、絶対的な霊を表現しました :
 1. パウロは卓越した霊、すなわち、従順で、足ることを知った、満足した霊を持っていました :
 - a. 彼の霊の中で、彼は自分の状況に全く服従し、満足しました。
 - b. 彼にとって、すべての状況は主から出たものでした。彼は何かを開始して、それを変えようとはしませんでした。
 2. パウロはそのような霊を持っていたので、彼がコリント人たちに答えた方法は、彼らを助けて、彼らも自分たちの状況の中で神と一になることができるようにしました——24 節。
- Ⅲ. パウロは主と一であったので、パウロが語った時、主は彼と共に語りました。こういうわけで、Ⅰコリント第 7 章においてわたしたちは、新約の肉体と成ることの原則の模範を見ます——10, 12, 25, 40 節 :
- A. 肉体と成ることの原則とは、神が人の中に入り、ご自身を人とミングリングさせ、人をご自身と一にすることです。こういうわけで、神は人の中におり、人は神の中にいます——ヨハネ 15:4-5 :
 1. 新約の中で、主はご自身の使徒たちと一になります。また彼らは主と一になっ

て、主と共に語ります。こういうわけで、主の言葉は彼らの言葉となります。また彼らが語るものは何であれ、主の言葉です。

2. 旧約の神のために語る原則は、「それゆえ……エホバはこう言われる」(イザヤ 10:24. エレミヤ 2:2)でした。新約の肉体と成ることの原則は、「わたし(語る者)は命じます」です。なぜなら、語る者と主が一であるからです。

B. パウロは、肉体と成ることの原則の中で I コリント 第 7 章を書きました：

1. 10 節の原則は、ガラテヤ 第 2 章 20 節の原則と同じです。それは肉体と成ることの原則です。すなわち、二つのパースンが一人のように生きることです。
2. パウロは主と一であったので、主の心と意思を知っていました。
3. パウロはそのような程度にまで主と一であったので、自分自身の意見を述べた時、自分も神の霊を持っていると思いました—— I コリント 7:40。
4. 25 節と 40 節で、わたしたちは最高の霊性を見ます。すなわち、主と全く一となり、主で飽和されて、自分の意見でさえ主の意思を表現した人の霊性です。
5. わたしたちは思っていることを発表しますが、もしわたしたちがその霊で浸透されるなら、それは主から出たものともなります。なぜなら、わたしたちは主と一であるからです——6:17。

© 2023 *Living Stream Ministry*